

▼庄司会長（左）と、遊技くぎ問題の該当遊技機の回収状況を報告した高井副会長

第1回定例理事会

5月19日
本部会議室
出席理事24人・監事2人・特別参与2人

全商協、回胴遊商も団体加盟へ 役員改選へ新理事は6人、退任4人

全商協、回胴遊商の団体入会について、合意書が詰め段階にあることが報告され、最終的には執行部に一任された。その後両団体と合意書が締結された。6月9日の日遊協第27回通常総会（第3回定時社員総会）での承認を経て両団体の入会が決まる。

合意書は、「役員、事務局間の定期的な意見交換の場を設ける」など5項目で構成されている。
同友会も改めて
日遊協へは、日工組、日電協が

された。庄司孝輝会長ら大半の理事の再任が承認された。通常総会での承認を経て、「庄司体制」は3期目（2013年6月から）に入ることになる。

4、5月は適合率回復

「遊技くぎの変更により性能が異なる可能性のある型式遊技機」の回収状況について、日工組から報告があった。日工組は2月10日、3月2日の2回、1次、2次の回収対象リスト45型式13万6967台を公表した。その後、該当遊技機の設置台数は3月末には9万2222台、4月末には7万1444台となったことが報告された。代替機に関しては、2月の保通協の適合は極めて悪く30%強だったが、4、5月は50%強と回復してきている。

両団体は昨年、それぞれの理事会で日遊協への入会を決議していた。締結された

昨年6月の総会で団体入会した。また、同友会は2007年に団体入会しているが、今回合意書を改訂し、改めて6月9日の総会で団体入会することになっている。

今後、業界の諸問題について、団体入会した5団体と日遊協とで広く意思統一を図り、文字通り業界横断的に解決を図ることが期待される。

理事候補6氏

木原茂成、日野泰昌、柳秀明、平本直樹、東野昌一、山田久雄

役員の選任に関する件が上程された。役員

監事候補

島山和生氏

監事も全機連推薦枠での交代で、林和宏氏が退任し、島山和生氏（株大喜屋商会）が後任の監事に推薦された。理事候補6氏、監事候補1氏は、通常総会での承認を経て正式に就任する。また、特別参与の篠原弘志氏（前専務理事）は任期満了に伴い退任する。

退任する理事は全機連推薦枠の和久田守彦（副会長）、秋田光勇、栢森秀行の3氏と後藤信行氏（前中国・四国支部長）。新理事に推薦されたのは木原茂成（大都販売（株）、日野泰昌（株日野商事）、柳秀明（株日進）、平本直樹（株プロローバ）、東野昌一（株平成観光）、山田久雄（株九州エース電研）の6氏。このうち木原、日野、柳の3氏は全機連の推薦枠での交代。平本氏は後藤氏の後任の中国・四国支部長。東野氏は日遊協へ団体入会している同友会の代表理事で日遊協特別参与から理事に昇格交代する。山田氏は昨年まで副会長を務め、今度は特命担当理事としてカムバックする。

その上で第3次の回収対象リスト公表は検討を続けているとして





決算、予算を承認

平成27年度事業報告書及び収支決算書(案)及び公益目的支出計画実施報告書(案)が承認された。27年度は事業活動収入4億3179万円、同支出4億1223万円で、収支差額は1956万円の赤字だった。内閣府認定委員会に提出する公益目的支出計画実施報告書による公益目的支出は健全化適正化事業費6400万円、社会貢献・

定している。
平成27年度に退任した篠原弘志前専務理事(特別参与)、松谷明良前理事・北海道支部長(相談役)の功労役員表彰が承認された。両氏は通常総会で表彰される。

新規入会を申請した正会員5社、賛助会員3社の入会を承認した。これで5月19日現在、正会員348社(ホール117、機械74、販売112、景品10、その他35)、賛助会員75社、計423社と団体会員3(日工組、日電協、同友会)となった。(17ページに新規入会会員)

日遊協支部運営会議

熊本地震被災地支援九州支部さらに4回

日遊協支部運営会議が5月19日、第1回定例理事会に先立ち本部会議室で開かれた。

熊本地震被災地へのボランティア活動について九州支部から報告があった。報告によると、4月末をメドに営業再開した店が増えていくが、5月19日現在20店ほどがまだ再開できていないという。同支部は既に3回にわたって益城町、御船町などでボランティア活動をしているが、今後さらに6月3(

4日、15(16日、23(24日、7月7(8日の4回(8日)にわたる活動予定が報告された。本部として同支部の活動に合わせ、6月15(16日、7月7(8日に全国からの有志によるボランティア隊を派遣する方針を確認した。

支部総会を秋開催に

また、支部総会は従来、春または秋に各支部がばらばらに行ってきたが、今後はできるだけ秋の開催とすることを申し合わせた。5、6月は本部の総会に加えて他団体の総会も集中しているためだ。秋に支部総会を開くことで、本部の定例理事会を支部総会に合わせ持ち出しにし、年1回は必ず支部会員との交流を図り、さらにセミナー開催や懇親会などを通して地方での新規入会を促進させたいとしている。

出席者(敬称略)

〔支部長等〕美山正広(北海道)、西村拓郎、茂木欣人(以上東京都・関東)、山口悟(中部)、福井章國澤良幸(以上近畿)、平本直樹(中国・四国)、有川裕之(九州)〔本部〕庄司孝輝(会長)、堀内文隆(専務理事)、伊東慎吾(常務理事)、山本健二(事務局長)

いる。第3次は14年度に適合を受けた型式が対象となりそうだ。

熊本ボランティア本部から2回派遣

熊本地震被災地へのボランティア隊派遣について、本部として6月15(16日、7月7(8日の2回、九州支部のボランティア活動に合わせ、全国の会員有志で編成し派遣する計画が承認された。人数は各回20人前後が考えられている。また、九州支部は6月上旬から7月上旬にかけて前後4回の活動を予

環境対策事業費1998万円、さわやか福祉財団寄付10万円だった。28年度収支予算書(案)が承認された。事業活動収入は4億7331万円で前年度予算額より8000万円の増。この中で取扱主任者関係の事業収入が2億1800万円、前年度予算額より8300万円増となっているのが目立つ。事業活動支出は4億4059万円で、前年度予算額より2500万円の増。収支差額3272万円の赤字が計上されている。

女性活躍推進フォーラム

「論理的思考」を勉強の18人「全5回」スタート

人材育成委員会主催の今年度第1回「女性活躍推進フォーラム」が5月26日、東京・日本橋三洋グループビル8階の会議室で開かれた。ホール企業を中心に、女性正規社員18人（1社1人）が参加した。

冒頭、前田竜哉委員長は「女性が考案して世の中に活力を与えたヒット商品はいっぱいある。業界としては2020年に目標を置いて、女性活躍を推進していくつもりです」とあいさつした。

4グループで討議

業界先輩社員のスピーチとして、参加者の中から湊奈津希氏（ジャパネットワークシステム株）が登壇した。湊氏は女性をゴリラに喩え「女性には3つの強みがあります。細かいことに気づく気配り、共感する能力の高さ、親睦性で、ゴリラの性質と同じで、この3つを表現していけば対男性にも対女性にも仕事しやすいとなると心掛けています」と述べた。この後グループディスカッションに移り、4グループは割り振られたテーマの中で実現したい企画を絞り、今後の進め方、役割分担などを協議した。

ク）、加藤千晃（ピーアークホールディングス）、崎田亜美（メッセ）
Bグループ 佐藤綾香（東和産業）、小林美和（NEXUS）、小倉綾夏（平成観光）、岡田歩惟（山佐産業）
Cグループ 杉山理々（ABC）、小原澤敦子（テラスホールディングス）、宮城彩奈（日進）、久保麻里菜（日拓ホーム）、甲斐絵里子（マルハン）
Dグループ 新井唯（オートク）、時直子（サンキュー）、原田穂乃佳（ジャパネットワークシステム）



勢ぞろいした18人の参加者と補佐する人材育成委員会のメンバー

守屋擁氏が講演

18人は今回と7月8日、10月13日、14日、来年1月27日の全5回のフォーラムを通して参加する。4グループ（4〜5人）に編成され、「キャリアプランニング」「ワークライフバランス」の2つのテーマに沿って企画を練り上げる。1月27日に成果を発表し、その企画を各自が持ち帰って自社の風土を変えていくことが目標の1つ。

実務セミナーでは、ホールの研修・教育・実践指導を行っているデライト・コミュニケーションズ株、守屋擁氏が「女性のためのロジカルシンキング」のタイトルで約2時間講演した。守屋氏は、「女性には右脳（感情・感性）が優位だが、

□フォーラムの参加者

（順不同、敬称略、株略）

Aグループ 大楠友里（愛和食品）、櫻井詩織（善都）、戸田有希乃（ニラ



企画内容を決めるグループディスカッション



ロジカルシンキングを講演する守屋擁氏

「共生の森・東松島」

クロマツ3千本植える

2日間、112人参加

日遊協は5月13、14日、緑のきずな再生事業「日遊協共生の森・東松島」として、宮城県東松島市の2地区で計3000本のクロマツを植えた。内訳は同市浜市地区(0・49ヘクタール)で2200本、立ち枯れが多く見られる昨年の植林現場・矢本地区(0・63ヘクタール)で補植800本となっている。

参加者は2日間延べ112人。谷口久徳副会長(東北支部長)、知念安光理事(社会貢献・環境対策委員会担当理事)、社会貢献・環境対策委員会メンバー14人、東京都・関東支部ボランティア隊22人、東北支部同29人、北海道支部同5人、植林指導の埼玉森林サポータークラブ5人、それに事務局となっている。両日とも晴天に恵まれた。13日は、浜市地区で翌日の植林の下準備作業を行うとともに、矢本地区で補植を行った。

バスなどに分乗して浜市地区の現場に集合した。午前11時過ぎに開会式が行われ、谷口副会長、知念理事らがあいさつした。

「正宗公からの伝統を」

谷口副会長は「今から500年前、仙台藩主伊達正宗公が海からの災害防止に取り組んできた防災林を、われわれの手で今一度、将来のために再生させていこうと思います」と述べた。

その後、7班に分かれて植林がスタート。参加者たちはめいめいで植樹位置を墨出し(石灰でマーク)し、苗木を置く。スコップやシヤベルで植樹位置を中心に40cm四方、深さ約20cmの穴を掘る。苗木の根を広げて植え、周りから土をかぶせて苗木を軽く上下に揺すり、足で踏んで空気を抜く。苗木を中心に周りの土を盛り上げ、マウンド式にする。埼玉森林サポーターたちが忙しく見回ってコーチして



植林する役員たち。左から知念理事、薛社会貢献・環境対策委員長、谷口副会長▶



植林開始前に全員集合

いた。作業は昼食をはさんで順調に進み、午後3時半過ぎに終了、同5時ごろ仙台駅で解散した。一部のメンバーは矢本地区に戻り、補植を完了させた。

4回計で7617本

これは東日本大震災の津波で被災した海岸防災林を再生させる林野庁の「『みどりのきずな』再生プ

ロジェクト」に日遊協として応じた植林事業。今回の浜市地区の植林対象面積は全体で4・87ヘクタールあり、林野庁は「社会貢献の森」と名付けている。日遊協を含めた9つの団体・企業・NPOが同庁と協定を結んで植林する。現地では広々とした平地に材木で組んだ柵が立てられて、各団体・企業・NPOの植林場所を区分していた。東日本大震災での海岸防災林の被災は青森県から千葉県にかけて約140kmとされている。林野庁は13年に「『みどりのきずな』再生プロジェクト」として植林を計画、団体・企業・NPOに活動参加を呼びかけた。日遊協は08年から埼玉県嵐山町で進めている里山造成10年計画「共生の森」が植林過程を終えて整備期間に入ったことから、新たに同プロジェクトに応じた。

日遊協の参加は、2013年5月の仙台市若林区荒浜地区0・16ヘクタール(クロマツ770本、ヤマザクラ70本)、14年5月の名取市下増田地区0・17ヘクタール(クロマツ777本)、15年6月の東松島市矢本地区0・63ヘクタール(同3000本)に続く第4弾の植林で計7617本となった。

中部支部総会

「支部活動を効果的に展開」安心遊技めざす

日遊協中部支部は5月16日、名古屋市の名古屋ガーデンパレスで2016年度中部支部総会を開いた。

開会のあいさつとして山口悟支部長が「熊本で大きな被害をもたらした大地震がありました。支部としても十分な支援を行っていききたい。業界の状況としては、若年層の離反が相変わらず深刻であり、くぎ問題、依存問題などと合わせて、各団体が一致団結してスピードをもって対処しなければならぬ。安心安全な遊技環境を作るために支部として健全化勉強会、取扱主任試験、セキュリティ対策部会などを通して効果的な展開を行い貢献していききたいと思います」と述べた。



来賓として庄司孝輝会長が挨拶する中部支部総会
中部支部総会で冒頭のあいさつをする山口悟支部長

庄司孝輝会長は「衆院内閣委員会の『くぎ問題』質問に対して、行政側から速やかな撤去が行われなければ、メーカーに取り消し、ホールに営業停止もあると厳しい見解を出している。社会の目は厳しく甘い考え方は通用しない。あくまで正しいルールに乗っかって自主的な撤去を完遂することが大切

で、いつまでに撤去されるか明示される必要もあり、その上でソフトランディングすることが不可欠だ」と強調した。

副支部長に小野直彦氏

議事審議に入り、2015年度事業報告、2016年度事業計画が承認され、新たに副支部長として小野直彦氏(タイホウグループ代表)の就任が提案

され満場の拍手で承認された。

本部報告として、堀内文隆専務理事がくぎ問題、高射幸性機、新流通の課題などについて解説し、伊東慎吾常務理事が委員会活動などについて説明した。

第2部のセミナーは、愛知県警生活安全全部保安課明石斎課長補佐が「遊技業界の健全化について」と題し講話を行った。日遊協遊技機委員会内藤裕人委員長が「新たな遊技機(ちょいパチ)等について」と題し、現在の遊技業界の状況を具体的な資料で説明

し、新たな活性化をめざす「ちょいパチ」について動画で詳しく解説した。

第3部の懇親パーティーは、深谷友尋相談役の祝辞を受け、寺内一史相談役の乾杯で元氣よくスタートした。全日遊連や地元メーカー、販社の人々にぎわい、交流を深めた。

JUNE

1日(水)	14:00~20:00	東北支部総会(パレス平安)
2日(木)	14:00~15:30	リサイクル推進委員会(本部会議室)
3日(金)	13:00~14:00	登録資格審査委員会(本部)
	16:30~17:30	貯玉補償基金 総会・理事会(グランドアーク半蔵門)
6日(月)	10:00~16:50	遊技機取扱主任者 更新講習・試験(札幌ガーデンパレス)
	15:00~16:30	中古機流通協議会(全商協)
9日(木)	13:00~14:00	東京都・関東支部総会(ハイアットリージェンシー)
	14:30~17:00	日遊協総会(ハイアットリージェンシー)
10日(金)	15:30~17:30	人材育成委員会(本部)
13日(月)	14:00~15:00	推進機構 理事会(情報オアシス神田)
	15:00~17:00	推進機構 定時社員総会(情報オアシス神田)
15~16日	終日	熊本地震ボランティア(御船町ボランティアセンター)
15日(水)	13:30~14:30	ゴト対策4団体会議(遊技会館)
	14:45~16:00	セキュリティ対策委員会(遊技会館)
17日(金)	13:00~15:00	社会貢献・環境対策委員会(本部)
20日(月)	13:30~14:30	不正対策室会議(本部)
21日(火)	15:30~17:30	遊技機委員会(本部)
22日(水)	10:00~16:50	遊技機取扱主任者 更新講習・試験(名古屋ガーデンパレス)
27日(月)	10:00~17:10	遊技機取扱主任者 新規講習・試験(ベルサール秋葉原)
29日(水)	15:00~17:00	風営法PT(本部)
30日(木)	10:00~17:10	遊技機取扱主任者 新規講習・試験(ベルサール神田)

6月の行事予定

中国・四国支部総会

新支部長に平本直樹氏「志を持って努めたい」

日遊協中国・四国支部は5月10日、広島市のメルパルク広島で2016年度支部総会を開き、新たな支部長として(株)プロバの平本直樹代表取締役社長を選出した。

開会にあたって後藤信行支部長は「業界は相変わらず厳しい風にさらされている。若い人たちの遊技離れ、メーカーのくぎ問題など課題が山積している。私たちは原点に帰って、市民に安心して遊んでもらえるよう、メーカーもホールも構えて努力しなければならぬ」とあいさつした。

来賓として、

◀(右)中国・四国支部総会の開会にあたってあいさつする後藤信行支部長
◀(左)総会懇親会で新支部長のお披露目。平本直樹支部長が決意を述べた

中国管区警察局広域調整第一課水谷直樹課長が「先般、衆院内閣庄司孝輝会長が「一般、衆院内閣委員会」で高井崇志議員が依存やくぎ問題について質問し、河野太郎国家公安委員長が厳正な対処を行うと答弁している。状況は簡単なものではないが、サミット以降に新しい遊技機が出てくる段階でさらに健全化を進めたい。その中でも、ホールに大きなダメージとされないようソフトランディングも心がけていきたい。適度な射幸性によってハードユーザーからソフトユーザーへより多くのファンを取り込んでいきたい」と話した。

議事に入り、2015年度支部事業報告、収支決算報告、2016年度支部事業計画、収支予算を承認した。支部役員改選の審議にあたり、後藤支部長が「8年務めたが体調のこともあり、ぜひ若い人にバトンタッチしたいと考えていた」と述べ、支部役員会推薦の平本直樹副支部長の就任が提案され、満場の拍手で決定された。平

本新支部長は「日遊協に所属していて良かった、中国・四国支部にいて助かった、と言ってもらえるよう志を持ってしっかり努めていきたい」と決意を表明した。

本部報告として、堀内文隆専務理事が大きな課題となっている「くぎ問題、新流通要綱、高射幸性機の取り扱い」について解説し、伊東慎吾常務理事が「経営問題及び本部活動」について報告した。

総会閉会后、セミナーが開かれ広島県警生活安全部生活安全総務

課の佐々木俊之課長補佐が講話を行い、茂木欣人風営法PTリーダー、内田忠良支部監事が「遊技業界をめぐる課題等」について講演し、内閣委員会の質疑や「ちよいパチ」、新流通の課題などについて動画映像を使って明らかにした。

懇親会では来賓として広島県警生活安全部寺岡伸和安全部長、山本祖助広島県遊協理事長から祝辞があり、中国遊商松原陽輔理事長の乾杯の音頭で和やかにスタートした。

日遊協、会員に要請

車内放置防止の徹底 依存対策、具体的対応を

日遊協はこのほど、「子どもの車内放置防止対策および依存問題対策の徹底について」と題するお願いを会員宛てに発信した。

子どもの車内放置防止対策については、これからの時期は日差しが強くなり、わずかな時間でも車内温度が急激に上がって危険な状態となるので、10月末までを「子ども事故防止強化期間」とし、各ホールはキャンペーンに沿って事故防止ポスターの掲示、駐車場の巡回、店内放送等の徹底を図るよ

う要請した。

依存問題対策については、「パチンコ店における依存(のめり込み)対応ガイドライン」及び同運用マニュアルの周知徹底と合わせて、過度なめり込みを抑制するための「自己申告プログラム」の導入を検討するよう要請した。さらに、従業員教育にあたっては、同ガイドラインとともに、先に制作したDVD「ガイドラインの概要と各店舗での取り組み方」の活用を呼びかけた。

